

西日本選手権レポート

小沢 拓身

久しぶりの西日本選手権出場である。

今回は北港の河野クンにお相手してもらった。

2 シーズンほど前はあれほど熱心に乗っていた河野クンであるが、最近すっかりご無沙汰している。気になって北港の池田さんに出場の打診をしてもらった。

二つ返事で OK である。彼もウズウズとした想いを溜めていたに違いない。

スキッパー登録はボクであるが、ヘルムスは河野クンにお願いした。

早速、時間を打ち合わせ、前週日曜日に練習をすることにした。

練習当日、ハーバーに現れた河野クンと久しぶりの対面。変わらず白い歯が輝いていた。「ム、ム、mummu」「そうだ、彼はレーサーなのだ。」

旧交を温めに来たのではない。彼はレースを欲しているのだ。

「さあ、大変。」

ボクのレースモードは休止状態なのだ。もう何年もアドレナリンを噴出させたことがない。彼の情熱に水を掛けるようなことはしたくない。

幸い、日ごろから身体を動かしていることで、体力に対する不安はない。精精しっかりとハイクアウトだけはしたい。

事前にヘルムスとフォアハンドの役割分担を話し合う。

ヘルムスに求められる能力の一つに、集中力が上げられると思う。今、自分が舵を引いているボートが「気持ちよく。」走っているのかどうか。五体全て、五感否六感をも動員して走りに集中できる集中力とその持久力だ。一方フォアハンドに求められる能力は多岐にわたっている。戦術、戦略的なレース核心部分から、ボートバランスコントロールなど…。

常々、ヘルムスとフォアハンドの関係は、野球のバッテリーに似ていると思っている。

ピッチャーの持ち球を生かすも殺すもキャッチャーのインサイドワークに掛かっているのだ。

その中でボクが今回一番重要視したのが、「ヘルムスのお守り」だ。

初めての乗艇となる河野クンには気分良く走ってもらいたかった。レース中のヘルムスとはセンシティブな人種である。自分の土俵、自分の描いている世界でないと本領を発揮できないのである。競争相手からのストレスだけでなく、自艇の中からストレスを感じていたのでは到底自分の土俵には昇れないのである。その意味で、セッティングを含め全て「河野流」を貰ってもらった。案の定、ボクのこれまでの「やり方」とは幾つか違っていた。

特にルーズなセッティングには正直驚き、戸惑い、また、楽しみでもあった。

セーリング理論を論じ合う場ではない。意義を挟む理由などない。河野くんには気持ちよく走ってもらえれば、それでいいのだ。

海上練習も、幾つかの修正点はあったものの、我ながらフォアハンドワークもソツなくこなし初めての乗り合いにしては上出来だ。

河野クンもブランクを感じさせない安定した舵さばきを見せてくれる。

レース当日、予定時間にハーバーに着くと、もう艀装を終えて待っている河野クンの姿があった。今日は又、一段と白い歯が光っている。燃えているのだ。

その分自分は冷静にならなくては。フォアハンドにアドレナリンは不必要だ。

軽風の中、捨てなしの3レースが始まった。

結果は、軽風で圧倒的なパフォーマンスを見せる植田夫妻、やはり軽風を得意とする「いぶし銀」多田/割石チーム、学連で成らした川瀬夫妻を抑えて我々が勝利を掴むこととなった。上位4チームの得点差は2点、更に2位の多田さんとの差は何と0,5点という非常に拮抗としたレース内容ではあったにも拘らず、一度も冷静さ失わず、それぞれの持ち場を全う出来たことに満足している。又、久しぶりのレースらしいレースを堪能させていただいた皆さんに感謝申し上げます。

表彰式で見た河野クンの白い歯は益々輝き、お陰でボクのヤニで黄ばんだ歯も幾分か輝いていたのでは。

河野クン、ありがとう。